

令和8年度（令和7年度実施）  
高知県公立学校教員採用候補者選考審査  
筆記審査（専門教養）  
中学校 高等学校 特別支援学校 中学部・高等部  
家庭

受審番号		氏名	
------	--	----	--

【注意事項】

- 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。
  - 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
  - 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。
- また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

※ 正しくマーク（正しい選択問題への解答及びマーク）していないと、正確に採点されませんので、注意してください。

受審番号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
①	①	①	①	①
●	1	1	1	1
②	●	2	2	2
③	③	3	3	3
④	④	4	4	4
⑤	⑤	5	5	5

記入例

（受審番号 1 2 3 4 5 の場合）

- この問題は、【共通問題】、及び【選択問題 中学校】、【選択問題 高等学校】、【選択問題 特別支援学校】の各問題から構成されています。選択問題で受審種別以外の問題を選択して解答した場合、解答は全て無効となります。

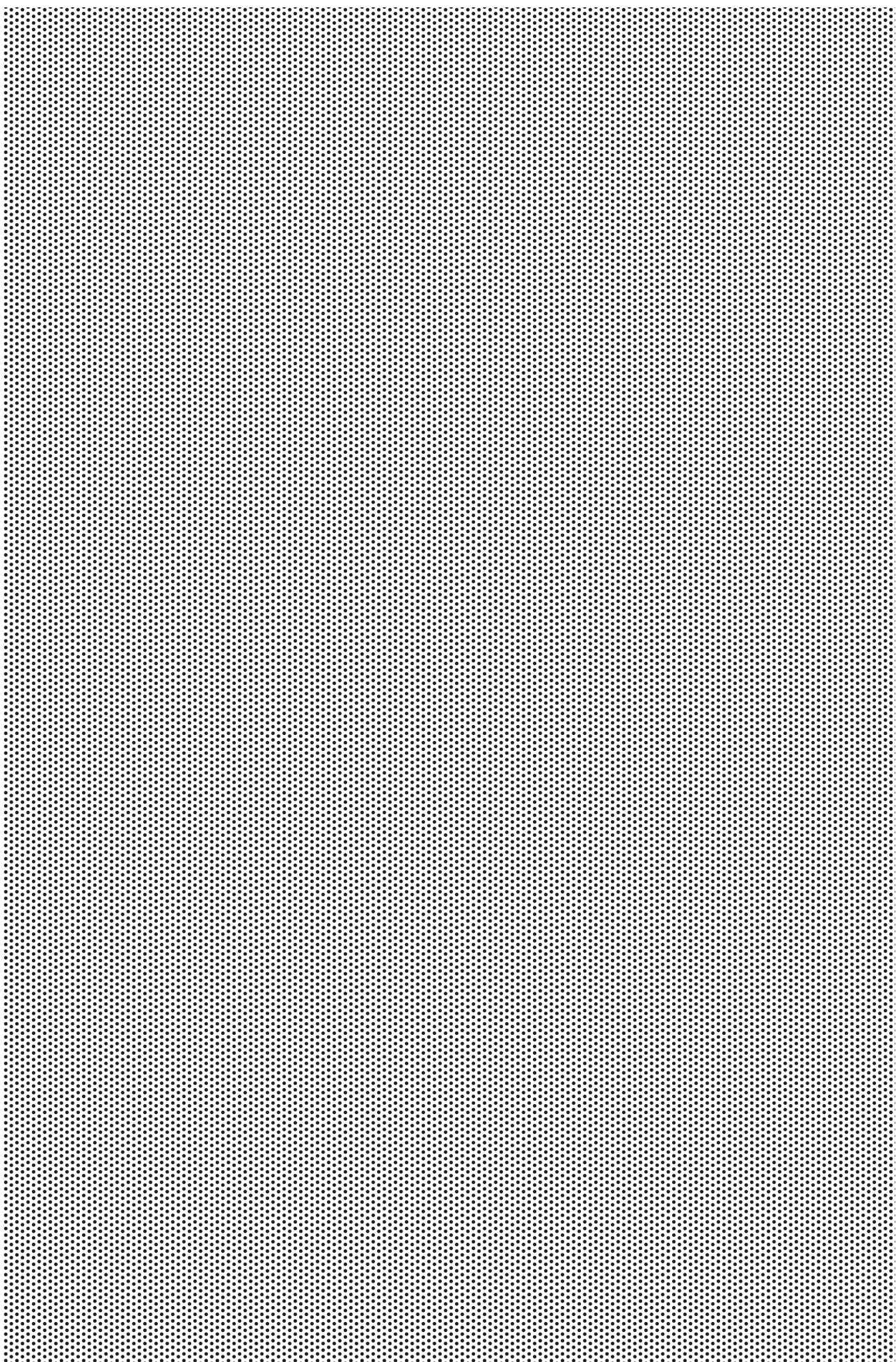
- 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 **ア** と表示のある問い合わせに対して b と解答する場合は、下の（例）のようにアの解答欄の **b** をマークしてください。

（例）

ア	a	●	c	d	e	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



**【共通問題】**

第1問 家族・家庭生活、保育、高齢者・共生に関する各問い合わせに答えなさい。

1 家族・家庭生活に関する (1) ~ (4) の問い合わせに答えなさい。

(1) 「精神的自立」の説明として適切なものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

ア

- a 自分の性だけでなく他者の性を尊重して、責任を持って行動できる。
- b 社会にかかわり、責任をもって自分の意見を表明し、他者との合意形成や人間関係を調整したり人に助けを求めたりする。
- c 衣食住に関する身の回りのことを自分で行う。
- d 収入を得て、それを自己管理する。
- e さまざまな問題に対して自分で決定し、責任を持って行動できる。

(2) 次の表は、「ジェンダー・ギャップ指数 (GGI) 2024年」の順位（世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書 (2024年)」より作成 2024.6.12発表）の一部抜粋である。日本に該当するものを、表中の a ~ e から一つ選びなさい。

イ

順位	国名	値
1	a	0.935
2	フィンランド	0.875
3	ノルウェー	0.875
4	ニュージーランド	0.835
5	スウェーデン	0.816
7	b	0.810
14	英國	0.789
22	c	0.781
36	カナダ	0.761
43	d	0.747
87	イタリア	0.703
94	韓国	0.696
106	中国	0.684
116	バーレーン	0.666
117	ネパール	0.664
118	e	0.663
119	コモロ	0.663
120	ブルキナファソ	0.661

(3) 「民法等の一部を改正する法律（令和4年法律第102号）」によって、令和6年4月1日から削除された条文を、次のa～eから一つ選びなさい。 ウ

	条文
a	(750条) 夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫または妻の氏を称する。
b	(752条) 夫婦は同居し、互いに協力し扶助しなければならない。
c	(2条) この法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等を旨として、解釈しなければならない。
d	(731条) 婚姻は、18歳にならなければ、することができない。
e	(733条) 女は、前婚の解消又は取消しの日から起算して100日を経過した後でなければ、再婚をすることができない。

(4) 「正規雇用」の働き方の説明として適切なものを、次のa～dから一つ選びなさい。

エ

- a 雇用契約期間の定めがない雇用。
- b フルタイムの有期雇用。契約期間は原則として最長3年である。
- c 雇用主の会社から別の会社に派遣されて働く働き方であり、登録型と常用型がある。
- d 臨時的または短時間の働き方。

2 保育に関する (1) ~ (5) の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の説明文に該当する語句として適切なものを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

オ

生まれつき持っている刺激に対する反射的な反応で、大きな音などに両腕を広げ、抱きつくような動作をすること。

- a 吸啜反射
- b 把握反射
- c モロー反射
- d ハンドリガード
- e 原始歩行

(2) 乳幼児に対する任意の予防接種として適切なものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。  カ

- a 口タウイルスワクチン
- b BCGワクチン
- c 水痘ワクチン
- d B型肝炎ワクチン
- e 流行性耳下腺炎ワクチン

(3) 地域型保育として適切ではないものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

キ

- a 家庭的保育
- b 居宅訪問型保育
- c 小規模保育
- d 認定こども園
- e 事業所内保育

- (4) 次の図は、諸外国（アメリカ、スウェーデン、ドイツ、フランス）と日本の意見表明権の認知について、各国の満13歳から満29歳までの男女を対象に調査したものである（こども家庭庁「我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和5年度）」より抜粋）。日本に該当するものを、図中の a～e から一つ選びなさい。

ケ

Q15 あなたは、こどもには「自分に関係することについて、意見や気持ちを聞いてもらえる権利」（意見表明権）があることを知っていますか。（回答は1つ）

【国別】

- (5) 次の枠内は「子ども・子育て支援法等の一部を改正する法律（令和6年法律第47号）の概要」である。（ア）～（ウ）に適する語句の組合せとして適切なものを、下の a～e から一つ選びなさい。

ケ

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1 「加速化プラン」において実施する具体的な施策        |
| (1) ライフステージを通じた子育てに係る（ア）的支援の強化  |
| (2) 全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充     |
| (3) 共働き・（イ）の推進                  |
| 2 子ども・子育て支援特別会計（いわゆる「こども金庫」）の創設 |
| 3 「子ども・子育て（ウ）制度」の創設             |

	ア	イ	ウ
a	財源	子育て	プラン
b	財源	共育て	支援金
c	経済	子育て	プラン
d	経済	子育て	支援金
e	経済	共育て	支援金

3 高齢者・共生に関する (1) ~ (5) の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、「高齢期の知的能力の変化」に関するものである。(ア)~(エ)に該当する語句の組合せとして適切なものを、下のa~dから一つ選びなさい。

コ

知的能力は、状況によって素早く対応する能力((ア)性知能)と知識や経験によって対応する能力((イ)性知能)に分けることができる。(ウ)力、暗記力や思考力などの(ア)性知能は、年齢によって低下するが、言語能力、理解力や(エ)力などにかかわる(イ)性知能は、年齢を重ねても著しく低下することはない。このふたつの能力は、たがいを補うようにはたらくため、高齢期になっても知的能力全体が大きく落ちることはない。

	ア	イ	ウ	エ
a	結晶	流動	洞察	計算
b	流動	結晶	計算	洞察
c	流動	結晶	洞察	計算
d	結晶	流動	計算	洞察

(2) 「令和6年版高齢社会白書」(内閣府)に示された令和5(2023)年における高知県の高齢化率として適切なものを、次のa~eから一つ選びなさい。サ

	65歳以上人口割合 (%)	75歳以上人口割合 (%)
a	39.0	21.2
b	22.8	12.9
c	27.7	16.1
d	36.3	20.7
e	28.5	15.2

(3) 「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）」（一部改正、令和3年4月1日から施行）において講ずるよう努める措置として適切ではないものを、次のa～eから一つ選びなさい。 シ

- a 65歳までの定年の引上げ
- b 定年制の廃止
- c 70歳までの継続雇用制度の導入
- d 70歳まで継続的に事業主が自ら実施する社会貢献事業に従事できる制度の導入
- e 70歳まで継続的に事業主が委託、出資（資金提供）等する団体が行う社会貢献事業に従事できる制度の導入

(4) 「老人福祉法」（昭和38年法律第133号）の基本的理念（一部抜粋）について、（ア）～（ウ）に該当する語句の組合せとして適切なものを、下のa～eから一つ選びなさい。 ス

**(基本的理念)**

第二条 老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な（ア）を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる（イ）で安らかな生活を保障されるものとする。

**第三条**

2 老人は、その（ウ）とに応じ、適当な仕事に従事する機会その他社会的活動に参加する機会を与えられるものとする。

	ア	イ	ウ
a	知識	健康	希望と能力
b	知識と経験	健康	希望と能力
c	能力	健全	知識と経験
d	能力	健康	知識と経験
e	知識と経験	健全	希望と能力

(5) 次の説明文に該当する施設名として適切なものを、下の a～d から一つ選びなさい。 セ

常時介護が必要で、家庭での生活が困難な人が入所する施設。食事や排泄など日常生活上の介護や身の回りの世話を受ける。

- a 特別養護老人ホーム
- b 介護老人保健施設
- c 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）
- d 介護療養型医療施設

第2問 衣生活、食生活、住生活に関する各問い合わせに答えなさい。

1 衣生活に関する (1) ~ (4) の問い合わせに答えなさい。

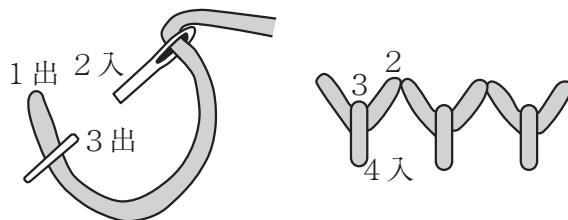
(1) 繊維に関する説明として適切ではないものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

**ア**

- a 麻は、主成分がセルロースの強くてかたい植物繊維で、光沢があり、触ると冷たく感じる。
- b 毛は、表面にスケールがある動物繊維で、吸水性が小さく、保温性が大きく、しわになりにくいく。
- c レーヨンは天然のセルロースを利用して繊維にした再生繊維で、吸湿性・吸水性が大きくしわになりやすい。
- d アクリルは石油などを原料に高分子化合物から繊維にした合成繊維で、弾力性があり保温性が大きい。
- e キュプラは天然のセルロースに化学薬品などを作用させて繊維にした半合成繊維で、絹に似た感触と光沢がある。

(2) 次の刺繍の名称として適切なものを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

**イ**



- a アウトラインステッチ
- b チェーンステッチ
- c フライステッチ
- d サテンステッチ
- e ランニングステッチ

(3) 次の記号について、「繊維製品の取扱いに関する表示記号及びその表示方法（日本産業規格 JIS L0001）」の意味として適切なものを、下の a～e から一つ選びなさい。

ウ

- a 日陰でのつり干し乾燥がよい
- b 日陰でのぬれつり干し乾燥がよい
- c 日陰での平干し乾燥がよい
- d 塩素系及び酸素系漂白剤による漂白処理ができる
- e 酸素系漂白剤による漂白処理ができるが、塩素系漂白剤による漂白処理はできない

(4) 次の説明文に該当する語句として適切なものを、下の a～e から一つ選びなさい。

イ

環境に配慮した素材や生産方法を用いて作られた被服や、労働者が安全で健康を損なわず、適正な賃金で働き、そこで作られた被服などを身に着けること。

- a クールビズ
- b エシカルファッショն
- c スマートテキスタイル
- d ファストファッショն
- e ライフサイクルアセスメント

2 食生活に関する (1) ~ (6) の問い合わせに答えなさい。

(1) 米に関する説明として適切なものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

オ

- a ジャポニカ種のうるち米のでんぶんにはアミロペクチンとアミロースがほぼ1:4の割合で含まれている。
- b もち米はうるち米に比べて吸水量が少ない。
- c 米に含まれるでんぶんに水を加えて加熱すると味も消化もよくなる。この変化をでんぶんのβ化という。
- d もち米を水にさらしたのち、水を加えながら臼でひいて粉にしたものを作ったものを白玉粉、うるち米を粉碎して、乾燥させたものを上新粉という。
- e せんべいはもち米、あらはうるち米を用いて作られる。

(2) 脂肪酸の説明として適切なものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

カ

- a 多価不飽和脂肪酸は血中のコレステロールを増加させるが、飽和脂肪酸には低下させる働きがある。
- b 多価不飽和脂肪酸にはオレイン酸やリノール酸などの体内ではつくることのできない必須脂肪酸が含まれている。
- c 魚油にはDHAなどの飽和脂肪酸が含まれている。
- d 鮫脂脂肪酸と一価不飽和脂肪酸は、エネルギーの摂取量が必要量を上回ると、主に体に蓄える脂肪としてつくられる脂肪酸である。
- e 不飽和脂肪酸に水素を付加してバターなどを製造する際に生成される脂肪酸をトランス脂肪酸という。

(3) 無機質の名称、働き、欠乏症、過剰症、多く含む食品の組合せとして適切でないものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

キ

	名称	働き	欠乏症	過剰症	多く含む食品
a	カリウム	筋肉の弾力性を保つ 細胞の浸透圧の調節	疲労感	嘔吐 食欲不振	野菜・果実・ 海藻
b	マグネシウム	細胞の浸透圧の調節	疲労感	浮腫 高血圧	食塩・みそ・ しょうゆ
c	リン	骨や歯の形成 体液のpHの調節	骨軟化症	低カルシウム 血症	卵黄・食肉・ だいず
d	ヨウ素	ホルモンの成分	甲状腺肥大 甲状腺腫	甲状腺腫	海藻
e	亜鉛	たんぱく質の合成 酵素の作用を補助	味覚障害	嘔吐 下痢	魚介・食肉・ 穀物

(4) 加工食品の食物アレルギー表示に関して、令和5年3月9日に施行された食品表示基準の改正によりアレルギー表示が義務付けられた特定原材料として新たに追加されたものを、次のa～eから一つ選びなさい。   ク  

- a くるみ
- b さば
- c りんご
- d カシューナッツ
- e 大豆

(5) 次の表は、魚のムニエルの材料と分量を示したものである。(ア)にあてはまる食品として適切なものを、下のa～eから一つ選びなさい。   ケ  

材料	分量（1人分）
魚の切り身	80～100g（1切れ）
塩	1g
こしょう	少々
(ア)	4g
サラダ油	4g
バター	4g
レモン	輪切り1枚

- a パン粉
- b ごま
- c 小麦粉
- d マヨネーズ
- e 白ワイン

(6) ライフステージごとの食生活の課題について適切でないものを、次の a～e から一つ選びなさい。 コ

- a 乳児期に続いて幼児期もからだの発達がめざましいため、1日に必要な栄養素の摂取量が多い。しかし、幼児期の肥満は成人に移行しやすいため、間食はさせない。
- b 児童期は活動量が増加し、食習慣や味覚が形成される。エネルギーと身体の組織を構成する栄養素が特に必要で、3回の食事リズムを整え、多様な味や薄味に慣れるようにする。
- c 壮年期は基礎代謝が減少し、仕事や家事・育児などで食事が乱れやすくなる。生活習慣病予防のため、エネルギーと食塩、アルコールなどのとりすぎに特に注意する。
- d 高齢期は食欲が衰え、味覚が鈍くなり、低栄養になりやすい。消化のよい食事で薄味を心がけるとともに、たんぱく質やカルシウム、植物性油脂の不足に注意する。
- e 妊娠・授乳期は胎児や乳児の発育、母体の健康にさまざまな栄養素が必要である。食塩のとりすぎやたんぱく質、カルシウム、鉄、ビタミンの不足に注意し、カフェイン摂取や飲酒は控える。

3 住生活に関する (1) ~ (3) の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の文は、日本の住まいの移り変わりに関するものである。(ア) ~ (オ) に該当する語句の組合せとして適切なものを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

サ

住まいは長い歴史の中で、各時代の社会や文化、そこでの生活などの影響を受け変化・発展し、独自の住宅様式をつくりあげてきた。支配階級の住まいは、弥生時代の(ア)住居を源流に、古代の(イ)から中世の(ウ)を経て、近世には(エ)が登場した。一方、庶民階級の住まいである民家は、縄文時代の(オ)住居を源流とし、支配階級の住宅様式の影響を受けつつ発展し、地域特有の様式を持つ。気候風土や職業と結びついて形づくられた職住一体型の住まいで、作業場や通路としての土間と、床を張った居室からなる。

	ア	イ	ウ	エ	オ
a	竪穴	寝殿造	書院造	数寄屋造	高床
b	竪穴	寝殿造	数寄屋造	書院造	高床
c	竪穴	書院造	数寄屋造	寝殿造	高床
d	高床	寝殿造	書院造	数寄屋造	竪穴
e	高床	書院造	寝殿造	数寄屋造	竪穴

- (2) 次の①～⑤の文は、「新たな住生活基本計画（全国計画）の概要（令和3年3月19日閣議決定）」における目標と各目標の基本的施策について説明したものである。①～⑤について、内容が正しい場合には○、誤っている場合には×とした場合、その組合せが適切なものを、下のa～eから一つ選びなさい。
- |   |
|---|
| シ |
|---|

- ① 目標1 「「新たな日常」やDXの進展等に対応した新しい住まい方の実現」  
空き家等の既存住宅活用を重視し、賃貸住宅の提供や物件情報の提供等を進め、地方、郊外、複数地域での居住を推進。
- ② 目標2 「頻発・激甚化する災害新ステージにおける安全な住宅・住宅地の形成と被災者の住まいの確保」  
大規模災害の発生時等、地域に十分な既存住宅ストックが存在しない場合には、建設型応急住宅を迅速に設置し、被災者の応急的な住まいを早急に確保。
- ③ 目標3 「子どもを産み育てやすい住まいの実現」  
民間賃貸住宅の計画的な維持修繕等により、良質で長期に使用できる民間賃貸住宅ストックの形成と賃貸住宅市場の整備。
- ④ 目標4 「多様な世代が支え合い、高齢者等が健康で安心して暮らせるコミュニティの形成とまちづくり」  
住宅の年収倍率の上昇等を踏まえ、時間に追われる若年世帯・子育て世帯の都心居住ニーズもかなえる住宅取得の推進。
- ⑤ 目標6 「脱炭素社会に向けた住宅循環システムの構築と良質な住宅ストックの形成」  
2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、長寿命でライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量が少ない長期優良住宅ストックやZEHストックを拡充。

	①	②	③	④	⑤
a	×	×	○	×	×
b	○	○	○	×	○
c	○	○	×	×	○
d	○	○	×	○	○
e	×	×	×	○	×

(3) 次の文は、耐震構造、免震構造、制震構造について説明したものである。(ア)～(エ)に該当する語句の組合せとして適切なものを、下のa～eから一つ選びなさい。ス

耐震構造：耐力壁で建物の強度を高め、(ア)で揺れのエネルギーに耐える。  
(イ)ほど大きく揺れる。

免震構造：建物と地面の間にある、(ウ)や滑り支承といった免震装置が揺れのエネルギーを吸収する。

制震構造：(エ)に設置した制震装置が揺れのエネルギーを吸収する。

	ア	イ	ウ	エ
a	建物全体	低層階	積層ゴム	建物外部
b	壁全体	低層階	筋かい	建物外部
c	建物全体	高層階	筋かい	建物内部
d	壁全体	高層階	筋かい	建物外部
e	建物全体	高層階	積層ゴム	建物内部

第3問 家庭経済、消費生活・環境に関する各問い合わせに答えなさい。

1 家庭経済に関する (1) ~ (3) の問い合わせに答えなさい。

(1) 契約の未成年者取消権について、①～⑤の中で取り消しができないものをすべて選んだ組合せとして適切なものを、下の a～e から一つ選びなさい。 ア

- ① こづかいなどの範囲内である。
- ② 未成年者が成人だとうそをついていた。
- ③ 保護者の同意がなかった。
- ④ 保護者が後から契約を承諾した。
- ⑤ 本人が成人後に代金を支払った。

- a ①②④
- b ①②④⑤
- c ①③⑤
- d ②③⑤
- e ③④

(2) 10万円を年利15%で借りた場合、1年分の利息として適切なものを、次の a～e から一つ選びなさい。 イ

- a 1,250円
- b 1,500円
- c 12,500円
- d 15,000円
- e 85,000円

(3) 収入と支出の項目と内訳の組合せとして適切でないものを、次の a～e から一つ選びなさい。 ウ

	項目	内訳
a	経常収入	給料、事業収入、社会保障給付金
b	特別収入	賞与、祝い金、見舞金
c	実収入以外の収入	預貯金の引き出し、保険金、個人年金受取金
d	消費支出	食料費、住居費、家具・家事用品費
e	非消費支出	所得税、社会保険料

2 消費生活・環境に関する (1) ~ (3) の問い合わせに答えなさい。

(1) 次の図は、「消費生活相談の販売購入形態別割合（年齢層別・2023年）」を示したものである。図中の（ア）に該当する語句として適切なものを、下の a ~ e から一つ選びなさい。工

(消費者庁「令和6年版 消費者白書」より)

- a 訪問販売
- b 電話勧誘販売
- c インターネット通販
- d インターネット通販以外の通信販売
- e 店舗購入

(2) 「銀行のキャッシュカードで、買い物などの支払い時に銀行口座から引き落とすことで即時払いができるもの」として適切なものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

オ

- a プリペイドカード
- b クレジットカード
- c デビットカード
- d ローンカード
- e 交通系ICカード

(3) 「パリ協定」の概要として適切でないものを、次の a ~ e から一つ選びなさい。

力

- a 先進国による資金の提供。これに加えて、途上国も自主的に資金を提供する。
- b 5年ごとに世界全体としての実施状況を検討する。
- c 世界共通の長期目標として、産業革命前からの地球平均気温上昇を2℃より十分下方に保持する。また、1.5℃に抑える努力を追求する。
- d 全ての国が共通かつ柔軟な方法で実施状況を報告し、レビューを受ける。
- e 主要排出国を含む全ての国が、削減目標を3年ごとに提出・更新する。

**【選択問題 中学校】**

第4問 学習指導要領に関する次の問い合わせに答えなさい。

次の文は、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編（平成29年7月）第2章 技術・家庭科の目標及び内容 第3節 家庭分野の目標及び内容 3 家庭分野の内容 B 衣食住の生活 の一部である。□ア～□キに該当する語句として適切なものを、それぞれ下のa～eから一つ選びなさい。

(3) 日常食の調理と地域の食文化

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。

(イ) 食品や調理用具等の安全と□アに留意した管理について理解し、適切にできること。

(ウ) 材料に適した□イの仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。

(エ) 地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた□ウの調理が適切にできること。

イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。

(内容の取扱い)

エ (3) のアの(ア)については、主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の表示を扱うこと。(ウ)については、煮る、焼く、□エ等を扱うこと。また、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。(エ)については、□オを用いた煮物又は汁物を取り上げること。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできること。

(6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。

(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の□カについて理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の□カについて考え、工夫すること。

(内容の取扱い)

ク (6) のアについては、簡単な図などによる住空間の□キを扱うこと。また、ア及びイについては、内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連を図ること。さらに、アの(イ)及びイについては、自然災害に備えた住空間の□カについても扱うこと。

<b>ア</b>	a 事故 d 経済	b 衛生 e 用途	c 適切な扱い方
----------	--------------	--------------	----------

<b>イ</b>	a 管理 d 加熱調理	b 調味 e 下処理	c 工夫
----------	----------------	---------------	------

<b>ウ</b>	a 和食 d 保存食	b 日常食 e 伝統的な行事食	c 郷土料理
----------	---------------	--------------------	--------

<b>エ</b>	a ゆでる d 揚げる	b 炒める e 和える	c 蒸す
----------	----------------	----------------	------

<b>オ</b>	a 食塩 d 砂糖	b みそ e だし	c しょうゆ
----------	--------------	--------------	--------

<b>カ</b>	a 計画 d バリアフリー化	b 整え方 e 構成と計画	c 管理
----------	-------------------	------------------	------

<b>キ</b>	a 設計 d 配置	b 計画 e 構想	c 表現
----------	--------------	--------------	------

## 【選択問題 高等学校】

第4問 学習指導要領に関する次の問い合わせに答えなさい。

次の文は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 家庭編（平成30年7月）第1部 各学科に共通する教科「家庭」 第2章 家庭科の各科目 第2節 家庭総合2 内容とその取扱い の内容の一部である。ア～キに該当する語句として適切なものを、それぞれ下のa～eから一つ選びなさい。

### (1) 食生活の科学と文化

ア(ア) 食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人の関わりについて理解すること。

**食生活を取り巻く課題**については、食品の生産や流通・販売の多様化、輸入食品の増大、食料自給率の低下、外食や中食への依存などにより、食生活を取り巻く環境が変化している現状を理解し、資源やエネルギー、アに配慮した食品の購入、調理、保存などの知識と技能を身に付けることができるようとする。

**食の安全と衛生**については、例えば、イや地産地消などを取り上げ、生産から消費に至る過程における食の安全と衛生について理解できるようとする。(中略)

**日本と世界の食文化**については、世界の食文化にも関心をもち、現代の我が国の食生活に様々な世界の食文化が影響を及ぼしていることに気付くことができるようとする。また、日常の食事における料理の盛り付け方や配膳の仕方、食器の種類や特徴など、ウについても食文化の視点から理解し、調理実習を通して食文化を継承するために必要な知識と技能を身に付けることができるようとする。

**食と人の関わり**については、食事と人の健康との関係をはじめ、一人一人のエが社会や経済、環境などに影響を与えることについて理解を深めるようとする。(以下略)

### (3) 住生活の科学と文化

ア(ア) 住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて理解を深めること。

**住生活を取り巻く課題**については、日本の住宅事情や住宅政策等を取り上げ、住生活を取り巻く現状を様々な角度から理解できるようとする。

**日本と世界の住文化**については、オに応じた家づくりと住まい方が地域ごとに行われ、歴史的にも発展してきたことについて理解できるようとする。(中略)

**住まいと人との関わり**については、住空間と人との関係（住空間の成り立ちや、住様式、起居様式など）、カと住居、ライフスタイルと住まいの関係、ライフステージに応じた住まいの在り方、これから住まい方について理解できるようとする。例えば、様々な住まい方、キなどを取り上げることも考えられる。(以下略)

- |          |                       |                         |          |
|----------|-----------------------|-------------------------|----------|
| <b>ア</b> | a ライフステージ<br>d 食事計画   | b 非常時<br>e ライフスタイルの多様化  | c 備蓄     |
| <b>イ</b> | a 食品添加物<br>d フードマイレージ | b 残留農薬<br>e 食品の安全確保のしくみ | c 放射性物質  |
| <b>ウ</b> | a 和食<br>d 伝統的な食習慣     | b 郷土料理<br>e 日常食         | c 食事のマナー |
| <b>エ</b> | a 食事<br>d 嗜好          | b 健康<br>e 関心            | c 食行動    |
| <b>オ</b> | a 季節<br>d 自然環境        | b ライフスタイル<br>e 気候や風土    | c 地域     |
| <b>カ</b> | a 安全<br>d 家族          | b 生活行為<br>e 家事労働        | c 生活条件   |
| <b>キ</b> | a バリアフリー住宅<br>d 住宅事情  | b ユニバーサルデザイン<br>e 住宅政策  | c 住宅ローン  |

**【選択問題 特別支援学校】**

第4問 次の1～4の問い合わせに答えなさい。

1 次の文は、令和3年6月に文部科学省より示された「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」の「第1編 障害のある子供の教育支援の基本的な考え方」の一部である。

文中の ア ～ ウ に当てはまる語句を下の1～9から一つずつ選びなさい。

**(3) 合理的配慮の決定方法・提供**

(中略)

合理的配慮は、子供一人一人の障害の状態等を踏まえて教育的ニーズの整理と必要な支援の内容の検討を通して、個々に決定されるものである。(中略)

これを踏まえて、設置者及び学校と本人及び保護者により、アを作成する中で、発達の段階を考慮しつつ、次の「④合理的配慮の観点」を踏まえながら、合理的配慮について可能な限りイを図った上で決定し、提供されることが望ましい。その内容は、アに明記するとともに、個別の指導計画においても活用されることが重要である。

**(4) 合理的配慮の観点**

合理的配慮については、個別の状況に応じて提供されるものであり、これを具体的かつ網羅的に記述することは困難であるが、中央教育審議会初等中等教育分科会報告においては、合理的配慮を提供するに当たっての観点を、①ウ、②支援体制、③施設・設備について類型化した整理が試みられている。

- |         |             |        |           |
|---------|-------------|--------|-----------|
| 1 教材・教具 | 2 年間指導計画    | 3 合意形成 | 4 指導要録    |
| 5 効率化   | 6 個別の教育支援計画 | 7 課題解決 | 8 教育内容・方法 |
| 9 障害特性  |             |        |           |

ア
イ
ウ

2 次の文は、令和5年3月に厚生労働省より示された「強度行動障害を有する者の地域支援体制に関する検討会 報告書」の一部である。

文中の **工** ~ **ク** に当てはまる語句を、下の a ~ d からそれぞれ一つ選びなさい。

強度行動障害とは、自傷、他害、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が、**工** 起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている「**オ**」である。

(中略)

**カ** によって平成13年に採択されたICF（国際機能分類）では「障害」の背景因子について、**キ** 因子と環境因子という観点から説明されている。ICFにおける環境因子とは「物的環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境の特徴が持つ促進的あるいは阻害的な影響力」とされ、強度行動障害を有する者への支援にあたっても、知的障害や自閉スペクトラム症の特性など**キ** 因子と、どのような環境のもとで強度行動障害が引き起こされているのか環境因子もあわせて分析していくことが重要となる。こうした個々の障害特性をアセスメントし、強度行動障害を引き起こしている環境要因を**ク** していくことが強度行動障害を有する者への支援において標準的な支援である。

- |          |            |           |
|----------|------------|-----------|
| <b>工</b> | a ごく稀に     | b 夜間に集中して |
|          | c 著しく高い頻度で | d 一時的に    |

- |          |      |        |
|----------|------|--------|
| <b>オ</b> | a 障害 | b 重複障害 |
|          | c 疾病 | d 状態   |

- |          |          |        |
|----------|----------|--------|
| <b>カ</b> | a UNESCO | b WTO  |
|          | c WHO    | d IAEA |

- |          |       |       |
|----------|-------|-------|
| <b>キ</b> | a 心理的 | b 行動的 |
|          | c 発達  | d 個人  |

- |          |      |      |
|----------|------|------|
| <b>ク</b> | a 発見 | b 決定 |
|          | c 把握 | d 調整 |

3 次の文は、「特別支援学校 小学部・中学部学習指導要領（平成29年4月告示） 第1章 総則 第3節 教育課程の編成」の一部である。

文中の **ケ** ～ **ス** に当てはまる語句を下の a～d からそれぞれ一つ選びなさい。

**カ** 知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の小学部においては、生活、国語、算数、音楽、図画工作及び体育の各教科、道徳科、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、**ケ** 児童に履修させるものとする。また、**コ** については、児童や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。

**キ** 知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の中学部においては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育及び**サ** の各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動並びに自立活動については、特に示す場合を除き、**ケ** 生徒に履修させるものとする。また、**シ** については、生徒や学校の実態を考慮し、必要に応じて設けることができる。

**ク** 知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、各教科の指導に当たっては、各教科の**ス** を基に、児童又は生徒の知的障害の状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定するものとする。その際、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導するものとする。

- |          |         |        |
|----------|---------|--------|
| <b>ケ</b> | a 特定の   | b 全ての  |
|          | c 特性のある | d 希望する |

- |          |           |             |
|----------|-----------|-------------|
| <b>コ</b> | a 外国語活動   | b 総合的な学習の時間 |
|          | c 日常生活の指導 | d 社会及び理科    |

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| <b>サ</b> | a 技術・家庭  | b 職業    |
|          | c 生活単元学習 | d 職業・家庭 |

- |          |         |             |
|----------|---------|-------------|
| <b>シ</b> | a 外国語活動 | b 情報        |
|          | c 外国語科  | d プログラミング活動 |

- |          |          |           |
|----------|----------|-----------|
| <b>ス</b> | a 見方・考え方 | b 段階に示す内容 |
|          | c 学年の目標  | d 配慮事項    |

4 次の表は、令和5年度の高知県公立特別支援学校中学部、高等部（専攻科を含む）卒業生の進路状況をまとめたものである。

表中の下線部①、②の説明として正しいものを、下のa～eからそれぞれ一つ選びなさい。

	福祉的就労					その他	
	①就労継続支援		就労移行	療養介護	②生活介護		
	A型	B型					
高等部卒業者数	6	46	2	0	20	1	57

- a 医療と常時介護を必要とする人に、医療機関で機能訓練、療養上の管理、看護、介護及び日常生活の支援を行うサービス
- b 一般企業等での就労が困難な人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行うサービス
- c 常に介護を必要とする人に、昼間、入浴、排せつ、食事の介護等を行うとともに、創作的活動又は生産活動の機会を提供するサービス
- d 一般就労に移行した人に、就労に伴う生活面の課題に対応するための支援を行うサービス
- e 一人暮らしに必要な理解力・生活力等を補うため、定期的な居宅訪問や随時の対応により日常生活における課題を把握し、必要な支援を行うサービス

①	セ
②	ソ

